

アクティブ・ラーニング型講座の オンライン化による学習効果

炭谷 俊樹¹

¹正会員 神戸情報大学院大学 学長
(〒650-0001 兵庫県神戸市中央区加納町2-2-7)
E-mail:sumitani@kic.ac.jp

多くの双方向対話を必要とするアクティブ・ラーニング型講座はオンライン学習には不向きとみなされてきた。しかしながら、最近のインターネットベースのビデオ会議システムは、遠隔地に散らばった参加者間のリアルタイム双方向の会話や小グループでのディスカッションをも快適に行うことができる。このようなビデオ会議システムの一つである「ZOOM」を用いて、アクティブ・ラーニング型の講座である「ナビゲーション講座」のオンライン版を実施した。その結果、対面の講座と同等もしくはそれ以上の学習効果が得られた。

Key Words : active learning, informal learning, Navigation, e-learning,

1. ナビゲーション講座

アクティブ・ラーニング型の1泊2日の講座。

学習目的は子どもの主体的・積極的な学習意欲や探究心を引き出すための接し方を身につけること。ロールプレイなどの体験を通じ、様々な声かけや接し方が子どもの学習意欲にどのような影響をあたえるかを体感し、自らの接し方について気づきを得るもの。2002年より30回実施し、高い学習効果と満足度を上げている。

(1) ラーンネット・グローバルスクール¹⁾

1996年に神戸に創設された民間スクールであり、アフタースクール、フルスクール、幼児スクールの3形態から構成される。デンマークの教育にインスピレーションを得、子ども一人ひとりの探究心や創造性を育む教育を実施してきた。

ラーンネット・グローバルスクールの特徴

- ・自ら夢や目標を持ち、その実現のためには自分は何をすべきか自分で考え、決め、実行する力を身につける
- ・六甲山の自然を毎日感じ、のびのびと学ぶ
- ・子どもたちにとって身近な現実や本物を通じて学ぶ
- ・基礎学力とそれを現実に応用する力を身につける
- ・テストによる相対評価や序列化は行わないが、どこまで学習が進んでいるかを自己管理する力をつける
- ・社会人経験豊富なナビゲーターが一人一人の子どもと深く関わる
- ・他の子供と深く関わり、互いを認め合う。年を超えた交流も特徴
- ・問題や失敗があったとき、それを人のせいにして逃げるのではなく、むしろ学ぶチャンスと捉えて解決策を考え、主体的に実行する

図-1 ラーンネット・グローバルスクールの特徴

(2) 第3の教育²⁾

ラーンネットでは管理教育でもない、放任教育でもない、子どもの自立性・主体性を促す、「第3の教育」を実施しており、そこで重要な役割を果たすのが子どもの探究心を育む「ナビゲーター」の役割である。



図-2 3つの教育の考え方

「ナビゲーター」が主体的学習を促進

- 子どもを指導するスタッフを「先生」ではなく「ナビゲーター」と呼びます
- ナビゲーターは教員免許にこだわらず**社会人経験者**を採用しています
 - 好きなもの得意なものを持っており、情熱を持って伝えられる人
 - 子どもの一人一人をしっかりと見て、その特徴に応じた対応のできる人
 - 人間的にも尊重でき、子どもを安心して任せられる人
- ナビゲーターは子どもの**主体的な学びを促進**します
 - 強制、命令、禁止、説明等の手段はできるだけ使わない
 - 子ども自身に考えさせ、行動させるような提案や質問を行う
 - 見本となるような態度を示す

図-3 ナビゲーターの特徴

Learning Outcome of Online realtime version of
an active learning workshop.

Toshiki Sumitani

Kobe Institute of Computing, Graduate School of Information Science

We compared learning outcome of online version and face to face version of an active learning workshop. Thanks to the development of cloud-based video conference technologies, online version produced even better result in a certain setting.